

平成25年司法試験 合格体験記

平成24年度修了（未修コース）宮平 靖子

平成25年に本法科大学院を修了して、同年の司法試験に合格した7期末修の宮平靖子です。私は、岡山大学法学部を卒業して岡山大学大学院法務研究科に進学しました。私が、法学部出身でありながら未修コースを選択したのは、大学入学時からロースクール進学を念頭に置いていたにもかかわらず、法学部時代は部活動に明け暮れて勉強を疎かにしていたため、既修コースに進学するには知識が不足しており、基礎からしっかりと固めていく必要があると考えたからでした。

私は、入学当初から授業を勉強の中心に据えていました。それは、授業の予習で手一杯だったからというのもありましたが、授業で習うことを自力で一から勉強する時間が勿体ないと感じたからでもありました。そこで、予習を丁寧に行い、授業に臨むことにしました。そして、授業は、予習の際に疑問に思ったことを解決し、習った内容を答案に表現するにはどうすれば良いかを意識して考えを整理し、知識を身につける復習の機会として活用するようにしました。さらに、実際に答案に表現できるかを確認するために、旧司法試験や司法試験の過去問を解いたり、時間がないときには答案構成だけでもするようにしていました。

また、私は論文試験よりも短答試験に対する苦手意識が強く、模試の結果も振るわなかったため、空いた時間の多くを短答対策に費やしました。短答対策については、司法試験の過去問を繰り返し解き、最初は全ての肢の解説と関連する条文・判例を、2巡目からは間違えた肢の解説や関連する条文と判例を読み込むという方法を採用しました。そして、1年次からできるだけTKC模試を受けるなどして時間感覚を身につけ、どのような失敗をし易いかを確認するようにもしていました。他に、授業の小テスト前を短答勉強に集中する時期と決めて短答の勉強量を増やすなどしていました。

私は、実際に司法試験を受験してみて、授業で習ったことが出ているなど感じるが多かったです。それは、授業と司法試験対策は切り離す必要はないし、授業を疎かにしないことは少なからず司法試験対策になるということだと思います。勿論、聞いたこともないような論点が出題されることはあります。しかし、そのような論点は多くの受験生にとって馴染みのない論点だと思います。したがって、多くの受験生が書ける論点を落とさないようにするためには、少なくとも授業を疎かにしないことが近道になると思います。

本法科大学院は、あまり大規模なロースクールではありませんが、その分、先生方と学生との距離が近く、気軽に質問や相談に行くことができます。私も、授業中に気にな

ったことなどを授業後に質問し、疑問に思ったことをすぐに解消して理解を深めるようにしていました。また、友人たちとはゼミを組んで答案の回し読みをしたり、百選潰しをしたりしていました。このように先生方のご尽力や友人たちの存在があったからこそ、私は司法試験を乗り切ることができたのだと思います。

最後になりますが、人によって得手不得手が異なるように、司法試験に合格するために必要なものも人によって異なります。これから司法試験を受験される皆様が、自分に必要な勉強方法を分析・実践し、合格を勝ち取られることを祈っています。